



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

**Liaison Office in Japan**

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO（国際連合食糧農業機関）日本事務所

2010年3月22日

LOJAPR 10/06—No. 155

**プレスリリース**

**エリトリア国におけるオブソリート農薬の安全防護対策・廃棄事業  
—日本政府がFAOを通じた1.38億円（1.5百万ドル）の拠出を決定—**

国際連合食糧農業機関（FAO）は、日本政府より1.38億円（約1.5百万ドル）の無償資金協力（貧困農民支援）を得て、エリトリアにおいて「オブソリート農薬\*の安全防護対策・廃棄事業」を実施する。

この為の書簡交換が、3月22日（月）ローマにて、ホセマリア・スンプシーピネス FAO 技術協力局長と、安藤裕康駐イタリア大使との間で行われた。

\*オブソリート農薬：使用されずに残されたまま、製造された当初の目的を果たすことが出来なくなり、廃棄しなければならなくなった農薬

（別紙）事業の背景、概要及び期待される成果

本件問合せ：FAO 日本事務所

Tel：045－222－1101

Fax：045－222－1103

Email: [FAO-Japan-Info@fao.org](mailto:FAO-Japan-Info@fao.org)

Web: [www.fao.or.jp](http://www.fao.or.jp), [www.fao.org](http://www.fao.org)

## エリトリア国におけるオブソリート農薬の安全保護対策・廃棄事業

1. 実施期間： 2年

2. 予算： 1. 38億円(約1. 5百万 USドル)

3. 受益者： エリトリア貧困農民

4. 背景：

エリトリアでの農薬オブソリート化問題は長い複雑な歴史を辿っており、その深刻な事態を鑑み、2006年9月から2008年2月の間、日本とオランダからの財政支援、及び FAO からの技術支援のもとに、詳細な在庫チェックが行われ下記が確認された(フェーズ I)。

- ① サイト数294、
- ② オブソリート農薬の量500トン(内100トンはその後使用可能と判明)、
- ③ 汚染された土壌1400平方メートル、
- ④ 汚染されたスプレーの数5000個以上、
- ⑤ 空缶の数1万2千個以上。

2008年1月にはワークショップが開催され、これまでの調査状況と今後の農薬管理についての優先事項についての議論がなされた。 その結果、今後エリトリアにおける病虫害及び農薬管理能力を向上させ、農薬のオブソリート化を防ぐためには、プロジェクト全体の管理と必要な技術支援、オブソリート農薬の安全保護対策、及び病虫害・農薬管理の強化について、複数のドナーから総額513万 USドルが必要と見積もられた。 更に、フェーズ I のこれら調査結果を無駄にせず、また他のドナーからの供与と連携して活かす為にも、日本政府からのタイムリーな援助が必要となったものである。

今回の日本政府からの援助は、主にオブソリート農薬処理に係る管理・技術・資材提供について活用される予定である。 日本政府拠出金の支援対象分は、以下の通りである。

- ① 286サイト
- ② 約400トンのオブソリート化した農薬
- ③ 約1400平方メートルの汚染土壌

本フェーズ II 全体予算は513万 USドルで、294サイト・400トンのオブソリート農薬・1400平方メートルの汚染土壌・汚染スプレー/空缶等処理、並びに病虫害・農薬管理能力向上を目的とする。 フェーズ I において効果的に機能した事業実施体制を引継ぎ、エリトリア農業省を中心とした関係省庁・民間企業・NGO 等を含む国家事業管理委員会を組織して、事業の円滑化を図るものである。 日本以外の援助国・団体は、FAO 技術協力局、GEF (Global Environment Facility)、エリトリア政府、African Stockpiles Programme を予定している。

5. 活動内容：

(1) 汚染危険地帯での緊急安全保護対策

フェーズ1事業で選抜された8箇所の危険地帯に存在するオブソリート農薬142トンについて現地で再梱包し、首都アスマラに集荷する(この部分は日本支援外)。 また、これに従事するエリトリア国スタッフに対し、汚染物質サンプリング方法も含めトレーニングを実施し、能力向上を図る。

(2) オブソリート農薬処理

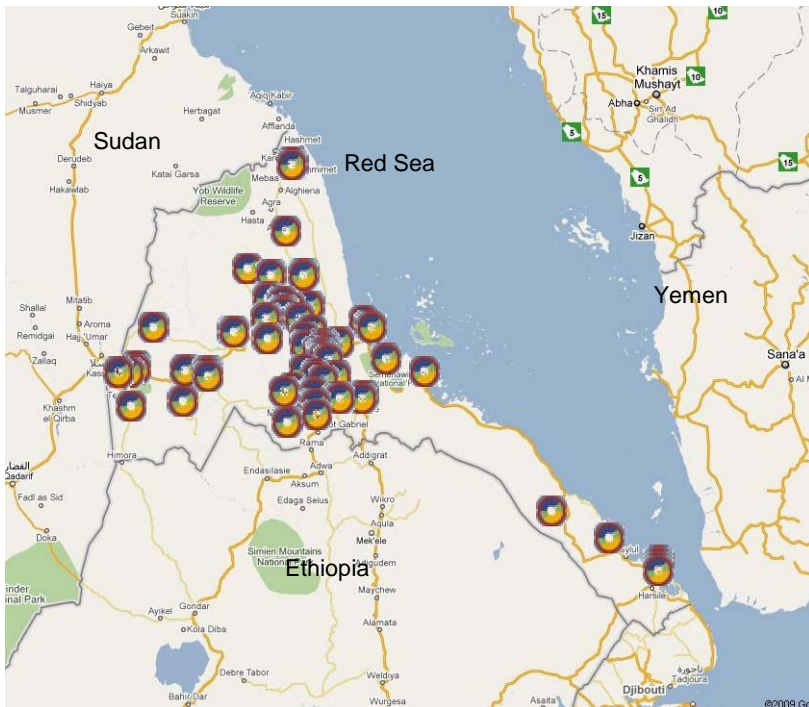
全国的に存在するオブソリート農薬、汚染物質・土壌、空き缶、スプレー、汚染された種子や肥料等について、最も経済的かつ環境調和型の手法により、個々に再生又は処理を行う。

6. 期待される効果：

(1) 汚染危険地帯における安全保護対策の実施により、汚染物資が安全かつ適正に隔離・除去されることにより、エリトリア全人口340万人の約90%の人々の健康、及びエリトリア農地50万ヘクタールの将来に亘る農薬汚染リスクから軽減される。

(2) 農業生産における、投入剤の減少、生産性の向上、より高品質の作物生産により、農業収入が増大し、生活向上が期待される。

プロジェクトサイト



<http://www.worldatlas.com/webimage/countrys/africa/er.htm>より